

高幡不動尊(日野市)

ここが高幡不動尊金剛寺



平安時代初期開基の高幡不動尊境内案内図



仁王門

仁王門/室町時代後期の建立/重要文化財/本来は楼門として計画されたものらしい





高幡山

重要文化財(建造物) **金剛寺仁王門**

昭和21年(1946)11月29日指定

桁行3間、梁行2間の堂々たる威容を誇る仁王門は建築時期を特定できる史料がないが、建築様式から室町時代後期(15世紀中頃から16世紀中頃)の建立と考えられている。江戸時代の地誌には単層茅葺、楼門(2階建)、二様の図が見られ、仁王門は何度かその上部構造を変えてきたようである。昭和34年から35年にかけて行なわれた解体修理工事時の木組の調査で、当時は外見上単層となっていたが、本来は楼門として計画されていたことを疑う余地がなくなった。そのため、重層入母屋造に復原され、屋根は茅葺型の銅板葺となった。平成27年には屋根の葺替と耐震補強工事が行われた。

平成27年(2015)10月1日 日野市教育委員会

Nio-Mon Gate (Gate of Two Guardians)

designated as a National Important Cultural Property

Lacking documents to indicate exactly when this gate was built, the architectural style places it in the late Muromachi Period (mid-15th century to mid-16th century). In the 34th to 35th years of the Showa Era (1959-1960), when repairs were made, a survey of the wood assembly left no room for doubt that, while the gate at one time stood only one story high, the original plan meant it to be two stories. The straw thatch was replaced with copper roofing when restoration was done. In the 27th year of the Heisei Era(2015), the copper roofing was replaced and measures were taken to strengthen the structure against earthquakes.

Hino City Board of Education



妻面の様子



柱は礎盤の上に立つ禅宗様だが、斗栱は大斗に三手先が載る和様となっており、折衷様ということのようだ



屋根の軒下



廻り縁端部の下



同じく、廻り縁中央の下



礎石の上に礎盤が載る



格子天井



仁王像



境内側から見たところ



少し退いて見たところ



不動堂

前方は不動堂/鎌倉時代の建立(1342年に西南方の山中から移建されたらしい)/重要文化財/東京都随一の古文化財建造物





重要文化財 金剛寺不動堂

不動堂はもと山上にあったが、建武2年(1335)の大風で倒壊し時の住僧儀海上人の発願によって、康永元年(1342)現在地に移建された。昭和31年の解体復原修理の際、江戸時代の彫刻群等、後世のものは全部取り除かれ、創建時の豪壮・簡素な堂に復原され銅板葺となった。

尚 堂内安置の丈六不動明王像ならびに両童子像(平安時代)・不動明王像内文書69枚(南北朝時代)及び鰐口(鎌倉時代・文永10年銘)はすべて重要文化財に指定されている。

日野市教育委員会

火気厳禁



妻面の様子



木連格子



箕甲の銅坂葺が綺麗にできている



縋破風の部分も綺麗だ



斗拱は平三斗で中備は間斗束という和様形式だが、内部の外陣には一部禅宗様式との折衷が見られると云う



軒下



アップで見たところ/二軒である



隅は、こんな塩梅



奥殿

奥殿/文化財を収蔵・展示する為の施設



そこで左手を見ると五重塔が見える



奥殿の廻りには、さまざまな説明書きがある

高幡山金剛寺の国指定重要文化財

不動堂

鎌倉時代創建 康永元年現在地に移建
桁行・梁間五間 入母屋造り・茅葺形疑似銅板葺

鎌倉時代創建の不動堂は、現在地の西南方の山中にあったが、建武2年(1335)8月4日の大風により、大木が倒れて損壊し時の住僧儀海上人が康永元年(1342)現在地に移建した東京都最古の文化財建造物である。儀海上人はこの間の経緯を不動明王像光背の下部に「・・・重ねて修造し奉る本堂一字并びに二童子尊體・・・」と刻み、更に昭和61年に発見された不動明王像胎内銘札にも「・・・重ねて修造し奉る本堂一字并びに本尊二童子尊體・・・」と記されており、鎌倉時代の堂を修理したことは確実である。

この不動堂は関東地方の中世密教建築の代表的遺構であり、昭和31年からの解体復原修理の際、後世の修理で付加された材はすべて取り除かれ創建時の豪壮・簡素な堂に蘇ったが、鎌倉時代様式の斗拱・木鼻・力強い曲線の垂木や康永移建時の丸柱7本が現存しており、簡素な和様を基礎に外陣の虹梁・太瓶梁・木鼻・浅唐戸など一部に禅宗様式との折衷が見られる。不動堂はその後応永22年(1415)の勧進状(兼海発願・深大寺長弁文堂)の通り建武以前の根本遺跡への復原が計られたが、その企画は実現せず康永移建時のまま現在に至っている。

不動明王像光背刻銘 (重要文化財 不動堂附属指定)

武州多西郡徳常郷内十院不動堂修護事 右此堂者建立不知何代檀那又不知云何人只星霜相繼貴賤崇敬也然建武二年乙亥八月四日夜大風俄起大木拔根板仍當寺忽顛倒本尊諸尊皆以令破損然間曆二年己卯檀那平助綱地頭并大中原氏女各專合力勸大功仍重奉修造本堂一字并二童子尊軀是只非興隆佛法供願為檀那安穩四海泰平六趣衆生平等利濟也仍所演旨趣如件

康永元年壬午六月廿八日修護功畢
別当権少僧都儀海 大檀那平助綱 大工橋広忠
本尊修護小比丘朗意 大中原氏女 観治橋行近

不動明王像内納入墨書銘札 (昭和61年の文化財総合調査の新発見)

(武州多西郡徳常郷内十院不動堂修護事) 右此堂者建立不知云何代檀那又不知云誰人只星霜相繼貴賤崇敬也然建武二年乙亥八月四日夜大風俄起大木拔根 仍當寺忽顛倒本尊諸尊皆以令破損然間曆二年己卯檀那平助綱地頭并大中原氏女各專合力勸大功仍重奉修造本堂一字并本尊二童子尊軀是只非興隆佛法供願為

檀那 (字體四海泰平六趣衆生平等利濟) 也仍所演旨趣 (如件) (以上表面)
(字體四海泰平六趣衆生平等利濟) (以上側面)

仁王門

室町時代後期 桁行3間・梁間2間
重層8脚門 入母屋造り 茅葺形疑似銅板葺

仁王門は創建以来数度に及ぶ修理を経て近年まで単層切妻の8脚門であった。口碑によると仁王門は享徳4年(1455)の立川河原の合戦で兵が屯して上層を焼失したと伝えられており、江戸名所図絵には単層茅葺、武蔵風土記稿には重層の門として描かれており時代によって変遷があった事が窺われる。昭和35年の金剛寺仁王門解体修理報告書によると、調査の結果火災の痕跡は認められず楼上の軸部を覆うような形で屋根が掛けられ外見上は単層となっていたが、仁王門が当初から楼門として計画された事はその木組から疑う余地がなく、茅葺形銅板葺・入母屋造りの楼門に復原された。

仁王門の位置は背後の不動堂に対してやや南側にずれており、明らかに大日堂に向いている。この仁王門から大日堂への線が鎌倉期の寺の主軸線で、その後建武の大風で損壊した不動堂が別荘みち(現参道)に真向く形で移建された為約7度のずれが生じたのである。仁王門は室町後期に再建されたがその際も旧礎石の上に建てられ位置訂正は行われなかった。

にじゅうご かじょうご ゆいごう 式拾五箇條御遺告

平安時代 安和2年(969) 層能書写
法帖仕立 1帖 23・4×15・5 縦 30丁

式拾五箇條御遺告とは弘法大師がご入定の6日前の承和2年(835)3月15日に弟子達に与えたと伝えられる遺誡で一宗の運営の大事や僧侶の修行規範等を詳しく指示したものである。遺告諸弟子等に始まる御遺告はその奥書に「安和2年(969)7月5日以前縁本書写層能」とあり十世紀にさかのぼる現存最古の写本である。更にその奥書の左に「萬壽2年(1025)6月16日於車宿自僧都(仁海)御口習承己了 □奉法沙門覺源」と朱書されており、花山天皇第四子で醍醐山第16代座主、東寺28代長者、並びに東大寺別当まで勤めた僧正覺源の所持本であったことが知られている。

上記の通りこの御遺告は真言宗史上極めて重要な文献である誇りでなく、平安時代にさかのぼる角筆文献としても著名で、更に又この御遺告の全文に附されている訓点は、若干23才で醍醐寺座主職を継承した覺源が、その3年後の萬壽2年(1025)に師の仁海より口づから習承して附したもので、平安時代の口伝と読み下しの実態を知ることのできる資料で、国文学史上稀に見る貴重な文献である。(詳しい内容については金剛寺の指定文化財をご参照下さい)

高幡山金剛寺の国指定重要文化財

Important Cultural Properties in the Takahatasan-Kongōji Temple

木造不動明王及二童子像

金剛寺不動堂の本尊で平安時代後期の丈六不動三尊像である。建武2年(1335年)の大風により、不動堂が倒壊した際に大きな被害を受けたが、時の住僧儀海上人及び大檀那・平助綱等の尽力によって康永元年(1342年)に修復された。不動明王坐像は像高285.8cm、本体は檜材、脚部は樅材が用いられている。本尊の光背は康永修理時のもので檜材・総高419.8cmである。

半丈六の両童子像はともに一木割刳造で矜羯羅童子は像高193.2cmで朴材、一部樅材が用いられている。制吒迦童子は像高230.4cmで椴材、一部桂材及び榎材が使用されている。三尊の用材が異なっていることから三尊の造立に地元の木材が使用されたと考えられており、在地の仏師の作ではないかとの見解もある。

平成6年(1994年)6月28日指定

高幡不動本尊像内文書

附・文書断片51葉

重要文化財木造不動明王像頭部から発見された南北朝初期の類例のない貴重な文書である。暦応2~3年(1339~1340年)の常陸合戦に動員された、当地土淵郷の武士山内経之が合戦に向かう途中や戦いのさなかから留守家族や高幡不動尊の僧しゃうしんな

どに送った書状と、その他関係者の書状が集められており中世武士のなまの姿を垣間見ることが出来る。

この文書の裏面には不動明王と大黒天の印仏が規則正しく捺されており、この合戦で戦死した経之供養の為にたまたま修理中であった不動明王の頭部に納められたものである。

尚、平成9年(1997年)から実施された丈六不動三尊修理の折舍利1顆が発見されており、この像内文書は山内経之供養の為に納入されたとの説が裏付けられた。

平成6年(1994年)6月28日指定

わに
鰐

ぐち
口

鰐口は仏堂の正面に吊り、参詣者が綱を振って鳴らす仏具である。この鰐口はかつて金剛寺不動堂に吊られていたもので鼓面径58.0cm・胴幅22.0cm・重量約70kgもあり、耳に鬼面の飾環が付いている。表裏とも内区に蓮華紋椴座、外区に銘文が刻まれている。表の銘文は金剛寺の沿革のほか、鰐口鑄造時の住僧・大檀那等関係者の名が記され、文永10年(1273年)5月20日の日付がある。裏の文安2年(1445年)2月2日の銘文は不動堂の現在地移建後、第一回の修復記念銘と考えられている。

昭和34年(1959年)6月27日指定

日野市教育委員会

Statues of the Fudō Triad

The three statues, formerly placed in the Fudōdō, were made in the late Heian period. They were seriously damaged by the storm which destroyed the Fudōdō in 1335, but were restored in 1342. Since each one of them are made of different woods, some views the statues to be made by local sculptor, with local materials. (designated on Jun. 28, 1994)

Manuscripts inside the Fudōmyōō

Manuscripts written in the early Nanbokuchō period were found inside the head of the Fudōmyōō. Most of them are letters of Yamauchi Tsuneyuki, a warrior who died in the Hitachi Battle(1339-1340). Letters vividly show a warrior's life in those days, and were put into the statue during the restoration, praying for the repose of Tsuneyuki's soul. (designated on Jun. 28, 1994)

Waniguchi

The waniguchi, a Buddhist tool, was once hung in front of the Fudōdō. There are writing on both sides, one introducing the history of the Kongōji Temple, with the date May 20, 1273. And the date Feb. 2, 1445 on the other side, is conjectured to be the commemoration of the first restoration of the Fudōdō, after rebuilding. (designated on Jun.27, 1959)

Hino Board of Education

高幡不動尊金剛寺の歴史

真言宗智山派別格本山 高幡山明王院金剛寺 は古来日本一と伝えられる木彫の丈六不動三尊像をご安置する寺で、高幡不動尊と呼ばれて親しまれている。

古文書等に大宝以前の草創、行基菩薩の開基と記されているが、平安時代初期に慈覚大師(円仁)が清和天皇の勅願によって当地を東関鎮護の霊場と定め 山中に御堂を創建したことが知られている。(重文・文永の鰐口銘文)

後、建武二年(一、三三五年)の大風によって山中の堂宇が倒壊し、時の住僧儀海上人が七年の歳月をかけて康永元年(一、三四二年) 麓に移建したのが現在の不動堂で東京都最古の文化財建造物である。

不動堂はその後建て直された仁王門と共に中世の密教建築の代表的遺構として旧国宝(現重要文化財)に指定されている。

鎌倉時代以後の高幡不動尊は十院不動堂と呼ばれた談議所(学問所)で真言宗武蔵方(虚空藏院儀海方)の中心寺院であった。

足利時代「汗かき不動尊」と呼ばれて鎌倉公方をはじめめとする戦国武将の尊崇をあつめ、江戸時代には関東十檀林に数えられ「火防の不動尊」として広く庶民の信仰をあつめたが、安永八年(一七七九年)の業火により大日堂及び奥院の諸伽藍を全焼した。

その後 徐々に復興に向い、殊に近年の五重塔建立・宝輪閣の建設・奥殿の完成等により堂塔伽藍が整い往時を凌ぐ程の寺観を呈するようになった。

高幡不動尊の主な文化財

高幡不動尊には大日如来像、不動明王像、二童子像、歓喜天像等平安時代の古像が現存しています。江戸時代安永八年の大火で数多くの寺宝を焼失しましたが尚二万点近い貴重な文化財が収蔵されており、その一部が奥殿の寺宝展会場に陳列されています。

主な文化財と寺宝 (太字は国指定及び都指定文化財)

●建造物 不動堂 重要文化財 鎌倉時代建立・南北朝時代現在地へ移建

仁王門 重要文化財 室町時代

五部権現社殿 都指定文化財 江戸時代・寛文十年

●仏像 不動明王像 重要文化財 平安時代

衿羯羅童子像 重要文化財 平安時代

制吒迦童子像 重要文化財 平安時代

大日如来像 市指定文化財 平安時代

歓喜天像 平安時代

●仏画 弁財天十五童子 都指定文化財 室町時代

地藏菩薩画像 市指定文化財 鎌倉時代〜江戸時代
ほか仏画二十六点

●工芸 鯛口 重要文化財 鎌倉時代・文永十年銘

五部権現神牌 重要美術品 鎌倉時代・暦応三年

太刀 平山季重佩刀 伝 伯耆安綱作

薙刀 北条氏照所持 三条宗近作 (在銘)

●古文書 聖経類 勸進状 重要文化財 平安時代・安和二年

像内文書(六九点) 重要文化財 応永二十二年 長弁和尚文案

理趣経曼荼羅 重要美術品 鎌倉時代

八箇大事 重要美術品 平安時代

神護寺経 重要美術品 平安時代

金剛寺文書 都指定文化財 平安時代

三沢十騎衆文書 市指定文化財 江戸時代 (四、一〇点)

古書・古経典 市指定文化財 安土桃山時代 (八点)

市指定文化財 (約八、〇〇〇点)

●史跡 殉節両雄之碑 市指定史跡 明治九年銘

境内の散策に

多摩丘陵の一角をとり込んだ高幡不動尊の三万余坪の緑豊かな境内は春の梅にはじまり椿・山茱萸・こぶし・桜・紫陽花・もみじなど四季おりおりの花木に恵まれ、更に新選組記念碑をはじめ数多くの史跡・記念碑・文学碑が散在しています。

裏山不動ヶ丘（愛宕山）は中世の山城・高幡城の遺構で、山内には八十八ヶ所の弘法大師像が祀られており、ご参拝に歴史・文学探訪に、自然観察に恰好な散策地になっています。

境内の主な花木

- 梅 二五株 内枝垂梅は五株
- 椿 二〇〇株 二〇種類位
- 山茱萸 五株 内一株は市の天然記念物
- こぶし 二〇株 幹回り九尺の大木もあります
- 桜 三〇〇株 そめいよしの・山桜・八重桜など
内枝垂桜は二〇株
- 紫陽花 七、五〇〇株 一七〇種類以上・全山が紫陽花で埋まります。

もみじ（古木） 三三〇株 いろはもみじ・大もみじが多い
（若木）一、〇〇〇株
その他珍しい山野草も数多く見られます

主な史跡・記念碑

- 上杉憲顕の墳（茶湯石） ○お鼻井戸
- 殉節両雄の碑（市指定史跡） ○土方歳三銅像
- 玉南鉄道記念碑 ○豊泉吉兵衛翁顕彰碑
- 山内八十八ヶ所開設碑 ○江戸消防第九区記念碑
- 日本観光百選記念碑 ○新東京百景一位入選記念碑
- 第二次大戦殉難者慰霊塔 ○花塚・茶筌塚・紅葉之碑
- 大観音像ほか各種記念碑多数

主な文学碑

- 芭蕉句碑 ○波郷句碑 ○誓子句碑 ○敏郎句碑
- 盤水句碑 ○袖子句碑 ○董米句碑 ○夏風句碑
- 鏡水句碑 ○柘二歌碑 ○清歌碑 ○悦男句碑
- 幸厚句碑 ○清交會句碑など

新選組関係資料のご案内

土方歳三の菩提寺高幡不動尊金剛寺が収蔵する

新選組並びに幕末関係資料は次の通りです。

殉節両雄之碑	(日野市指定史跡)	(所在)	井天池入口
明治九年銘、明治二十一年建立				
土方歳三銅像	(平成七年建立)	(所在)	井天池入口
土方歳三位牌	「歳進院殿誠山義豊大居士」	(所在)	大日堂
近藤勇・沖田総司・井上源三郎	位牌	(所在)	大日堂
新選組隊士大位牌	(秋山祐雅大僧正書)	(所在)	大日堂
榎本武揚書簡	一通		
土方歳三書簡	三通		
土方歳三隊々旗「東照大権現」の幟	<small>のぼり</small>	一旒		
中島登覚書写「新選組英名并日記」	一帖		
井上源三郎脇差	一振		
天然理心流佐藤道場使用の木剣	二振		
天然理心流剣術中極意目録ほか	三通		
天然理心流柔術許状	三通		
関係者書画軸等	(所在)	奥殿	
徳川慶喜(一幅)	榎本武揚(一幅)	大鳥圭介(四幅)	勝海舟(三幅)	
山岡鉄舟(二幅)	高橋泥舟(一幅)	山縣有朋(一幅)	松本良順(三幅)	

前記の他、大山巖(額二面)頼山陽(額)など多数収蔵しておりますが一度に展示しきれませんので順次展示させていただきます。

新選組のふるさと日野

土方歳三の生家は多摩川と浅川に挟まれた日野市石田地区草分けの旧家の一つで高幡山金剛寺の檀頭格の家柄です。歳三の姉ノブが嫁いだ日野宿本陣の佐藤彦五郎宅に天然理心流の道場が開かれ多くの若者達が剣の道を学びました。

この道場が後の新選組の中核となった近藤勇・土方歳三・沖田総司・井上源三郎らの出会いの場でもあります。従って日野市内には新選組関連の史跡・遺品が数多く残されており日野市は「新選組のふるさと」と云われています。

こななもの



上杉堂

これは上杉堂(上杉憲顕の墓)/享徳4年(1455年)1月、関東公方足利成氏と関東管領山内上杉氏・扇谷上杉氏とが争った立川河原合戦で敗れた上杉憲顕(犬懸上杉氏の上杉禅宗の子で憲秋とも記される)は、ここ高幡不動まで逃れて自刃したという



右手に説明坂が立っている





上杉堂 (上杉憲頼の墓)

上杉憲頼は氏憲(禪秀)の子、享徳四年正月、
(一四五年)足利成氏の軍と立川原に合戦、
深手を負い高幡寺に入り自刃した。自然石は
その墓標で、俗間信仰に茶湯石(服石)と言ひ
百か日忌拂い供養の伝承がある
(鎌倉大草紙)

「上杉憲頭公墳」と記された扁額



手前の自然石がその墓標



北嶺 釋 南 拜

摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至無意識界無異明亦無無明盡乃至無老死亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得無所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜多是大神咒是大明咒是無上咒是無等等咒能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜多咒即說咒曰
 揭諦揭諦波羅揭諦波羅僧揭諦菩提薩婆訶
 般若心經

奉拜 玉 珠

八 奉拜 神佛 灑

龍泉 市 山 福神

そこから見た五重塔



この多摩地域出身の、土方歳三像と近藤勇・土方歳三顕彰碑



日野市指定史跡

近藤勇・土方歳三顕彰碑

昭和三十六年十月一日指定

この碑は、多摩地域に生まれ、幕末の新選組局長及び副長として活躍した近藤勇・土方歳三の事績を記したもので、文の撰者は元仙台藩の儒者大槻磐溪、書は元幕府典医頭・医学所所長の松本順、篆額は元京都守護職松平容保の書である。松本は、はじめ徳川慶喜に篆額の書を依頼したが、慶喜はただ涙を流すばかりで返事がなかったため、松平容保に依頼した経緯が知られる。

明治七年（一八七四）、明治政府は戊辰戦争で敵対して戦死した者の霊を祀ることを許可し、これに伴い、各地に追悼・慰霊・顕彰のモニュメントが建立された。

多摩地域でも同九年、金剛寺住職賢雅和上が、佐藤俊正・糟谷良循・本田定年・橋本政直・近藤勇五郎・小島為政ら近藤・土方の親族及び天然理心流の後援者たちとはかり、近藤・土方両雄の殉節を顕彰する碑の建立準備を整えた。同十五年に建立許可が下りたが、豪農による自由民権運動の高まりの中で建立は延引し、構想から十年以上を経た同二十一年七月、ようやく高幡山金剛寺境内に竣工した。

日野市教育委員会

The monument to Isami Kondo and Toshizo Hijikata Designated as an Historic Site of Hino on Oct.1.1961

This monument testifies to the accomplishments of Shinsen-gumi chief Isami Kondo and his deputy, Toshizo Hijikata, both of them born and raised in the Tama area.

Shinsen-gumi was active in the waning years of the Tokugawa shogunate. This monument was erected in honor of their actions to give their lives for the cause to protect the Tokugawa shogunate.

In the Meiji Era the monument was constructed at the urging of the chief priest of Kongoji Temple, thanks to the efforts of surviving family members and successors.

Hino Board of Education

こんなものも



そこから見た五重塔



文永の板碑

これは文永の板碑/鎌倉時代(1271年)の造立/日野市指定文化財/武蔵国の高麗地方から移住した平姓の高麗一族の始祖の
供養塔と云う



アップで見たところ



前方は大日堂への山門



境内はアジサイがそこかしこに咲き誇っていた



こな塩梅



五部権現社

こちらは五部権現社殿



五部権現社

五部権現社

康平五年（一〇六二）源頼義奥州征討（前九年の役）より凱旋の途次この寺に参拝し八幡宮を祀って寺の鎮守とした。のち四社を合祀して五部権現という。安置の神牌五基は重要美術品（昭和十三年指定）で暦應三年庚辰三月二十八日（一三四〇）の銘が刻まれ、本地垂迹説の好資料である。現社殿の建立年代については明らかではないが、室町期と推定され、東京都重宝（昭和三十四年指定）全三十五年復興修理を施し、平成六年現在地に移建した。民間にやけど除けの信仰が伝えられている。

本地垂迹

本地（裏）
 虚空蔵菩薩
 如意輪観世音
 金剛薩埵
 大日如来（金胎）
 大日如来（表）
 船荷大権現神
 八幡大権現神
 高野大権現神
 丹生大権現神

東京都指定有形文化財（建造物）

こんごうじきゅうごぶごんげんしゃでん

金剛寺旧五部権現社殿

所在地 日野市高幡七三三
指定 昭和三五年二月一三日

金剛寺の境内鎮守として創立されたもので、寺伝によると、源頼義が奥州反乱鎮圧に際し、ここに八幡社を勧請し、のちに稲荷、丹生、高野、清龍権現を合祀して五部権現と称するようになったと伝えられます。この五部権現社は、現存する棟札により、暦応三年（一三四〇）に創建され、寛文一年（一六七一）に再建された江戸時代前期の社殿として類例の少ない貴重な文化財です。建物の構造は、一間社流造、銅板葺、向拝付きで、大きさは桁行一・五二m、梁間一・三〇mあります。木部全体に朱の漆が塗られ、彫り物の刻線には墨、さらには向拝葺股には群青などの鮮やかな彩色が施されています。社殿に安置されていた五基の神牌には、暦応三年（一三四〇）二月二八日造の銘があり、本地仏の垂迹神の名を刻し、国の重要美術品に認定されています。なお、五部権現社殿は奥殿建設工事に伴い、平成八年大日堂前に移築されました。

平成二三年三月 建設

東京都教育委員会



その傍にあった庚申塔



大日堂

正面が大日堂/高幡山の総本堂





お鼻井戸

これはお鼻井戸/湧水がある

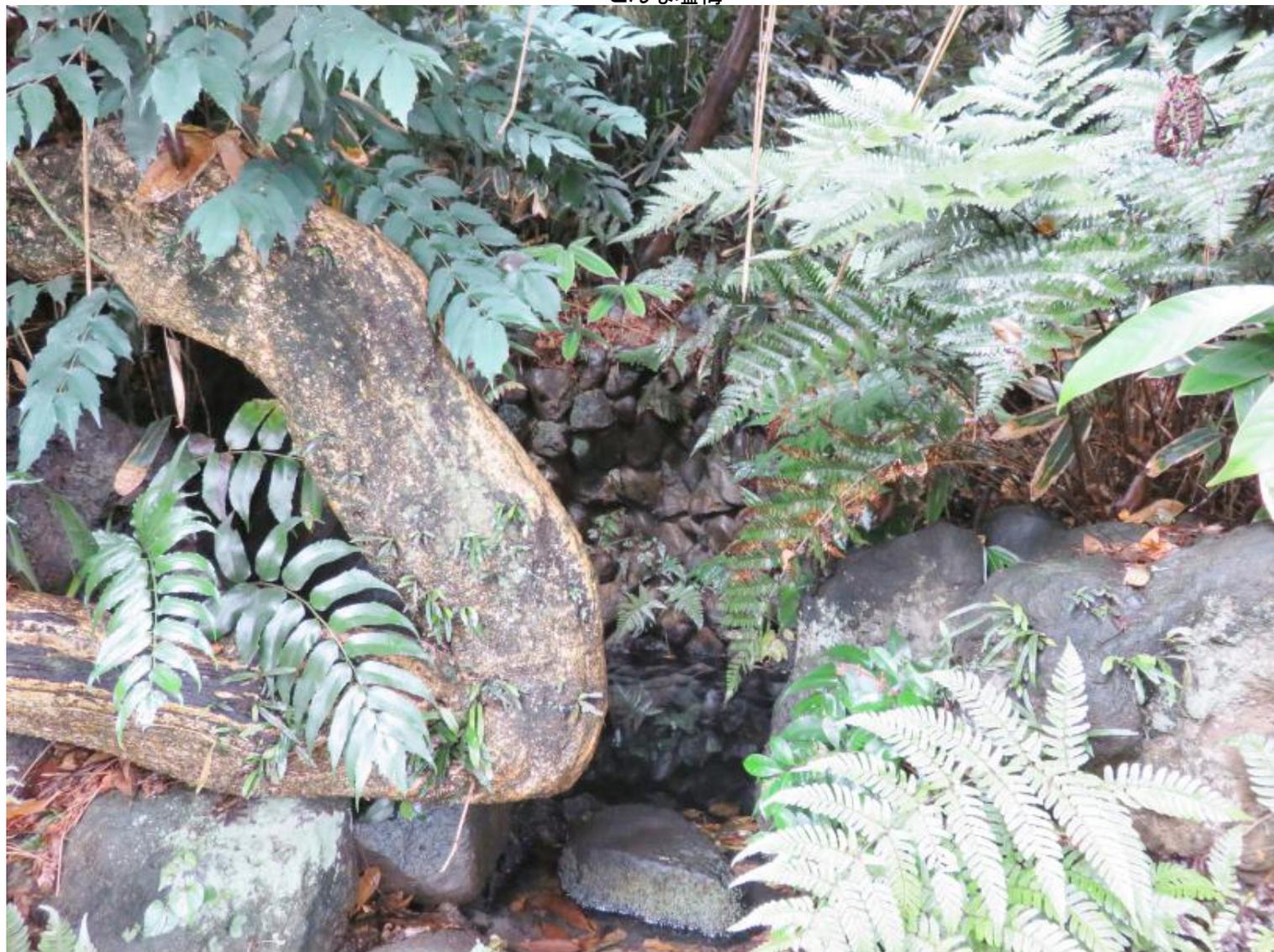




お鼻井戸

建武二年（一三三五年）八月四日
夜の火風の為、不動堂が倒れた所
不動尊像が落ちて鼻をついた所と
伝へられている

こな塩梅



聖天堂

これは聖天堂



こんな大きい五輪塔があった



大師堂

これは大師堂



虚空蔵院

こちらは虚空蔵院



いよいよ、五重塔





組物は和様の三手先斗栱





山内経之供養塔

前方は山内経之供養塔/南北朝期の貴重な像内文書(重要文化財)を残した当地の小領主山内経之を供養する九輪塔/経之は北朝方に参加し、下総国の駒城合戦で戦死したと云う



近づいて見たところ/説明板がある



山内経之供養塔と像内文書（重要文化財）

当山に南北朝期の貴重な像内文書を残した土淵^{ツツミ}（日野市日野本町及び日野市日野とその周辺地域）の小領主山内経之は、北朝方の高師冬^{タカノリフユ}の北高麗^{北高麗}進攻め（常陸合戦）に参加し、下総国の駒城合戦で戦死した。

像内文書は、経之が下総へ向う途中やさまざまな合戦のさ中より留守家族や高幡山の僧しやうしんなどに届けた書状が中心で、戦費調達之苦しさや所領^{しよりやう}経営の破綻・戦鬪の苦態・寺院との関係など中世武士の生の生活記録となっており、六十九枚の文書中五十枚は経之の筆であることが確認されている。

これらの文書は、経之の遺族や関係者が戦死した経之ゆかりの書状の背面に不動明王や大黒天の印仏をして、当時建武二年の大風の被害を受け修理中であった不動明王の頭部に納めて故人の冥福を祈ったものである。

文書の存在は昭和初年に確認されたものの鼠の被害等損耗が激しく解説不能と見られていたが、昭和六十年からの文化財総合調査でその重要性が指摘され、その後日野市教育委員会の手で数年をかけて全容が解明され、全国に類例のない中世武士の貴重な文書として重要文化財に指定された。

文書を残した山内経之一族の消息はその後当地方から絶えており判然としないが、当山では此の度中世の九輪塔（中島久榮氏寄贈）を山内経之供養塔として山裾に移設し、その菩提を弔うと共に、経之の事蹟を永く後世に伝えんとするものである。

平成二十五年四月二十六日 高幡山金剛寺 現董 祐勝 誌之

この塔は小平市学園東町に居を構えていた中島 涉・久榮夫妻宅の庭園にあった中世の九輪塔です。平成二十三年に当山檀徒佐藤収一氏のお骨折で、ご遺族の中島久榮様から当山に奉納されました。

元は岡山出身の実業家山本唯三郎邸にあってと伝えられています。唯三郎は同志社へ新島 襄の胸像を寄進するなどさまざまな社会貢献をした方ですが、その反面虎大尽と呼ばれてその豪遊ぶりでも有名です。

山内経之供養塔と像内文書（重要文化財）

当山に南北朝期の貴重な像内文書を残した土淵郷（日野市日野本町及び日野市日野とその周辺地域）の小領主山内経之は、北朝方の高師冬こうのむらゆきの北畠親房攻め（常陸合戦）に参加し、下総国の駒城合戦で戦死した。

像内文書は、経之が下総へ向う途中やさまざまな合戦のさ中より留守家族や高幡山の僧しやうしんなどに届けた書状が中心で、戦費調達の苦しさや所領経営の破綻・戦闘の実態・寺院との関係など中世武士の生の生活記録となっており、六十九枚の文書中五十枚は経之の筆であることが確認されている。

これらの文書は、経之の遺族や関係者が戦死した経之ゆかりの書状の背面に不動明王や大黒天の印仏をして、当時建武二年の大風の被害を受け修理中であった不動明王の頭部に納めて故人の冥福を祈ったものである。

文書の存在は昭和初年に確認されたものの鼠の被害等損耗が激しく解読不能と見られていたが、昭和六十年からの文化財総合調査でその重要性が指摘され、その後日野市教育委員会の手で数年をかけて全容が解明され、全国に類例のない中世武士の貴重な文書として重要文化財に指定された。

文書を残した山内経之一族の消息はその後当地方から絶えており判然としな
いが、当山では此の度中世の九輪塔（中島久榮氏寄贈）を山内経之供養塔として山裾に移設し、その菩提を弔うと共に、経之の事績を末永く後世に伝えんとするものである。

平成二十五年四月二十六日 高幡山金剛寺 現董 祐勝 誌之

アップで見たところ



近くにこんなものもあった



ここは弁天池



これは交通安全祈願殿



参考ホームページ

https://www.takahatafudoston.or.jp/?page_id=13

<http://www.syougai.metro.tokyo.jp/bunkazai/week/hino/hino09.html>

